
聖闘士deポエム

Glaray

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

聖闘士deポエム

【Nコード】

N6896Y

【作者名】

G l a r a y

【あらすじ】

聖闘士星矢のキャラを題材にして作ったポエム集みたいなものです。

気が向くままに投稿するので、たぶん不定期更新となります。

内容的には、聖闘士星矢を知らなくても解釈が出来たりするようになっているので、星矢ファンでない人も気が向いたら是非見てみてください！！！

花が散ったなら…

はい、「聖闘士deポエム」、始めました。

これは私の思いついた、聖闘士をネタにした詩を書いていくコーナー(?)です。

物好きな方、駄文で良ければ是非見てください。

もし、「冥闘士とか海闘士をネタにしろ!」という意見・要望などございましたら気軽に言ってください。

採用する…かも知れません。

さて本編です。

今日のは結構前に思いついたやつです。

誰のことなのか… すぐ分かりますよね?(笑)

「花が散ったなら…」

死は永遠なのか

いや、それすら変化の一つに過ぎない

生は虚しいだけなのか

いや、それを語れる程分かりきってはいなかった

数珠を一つ爪繰れば

塵と消えよ、我が煩惱の犬

今こそ歩めようか、

光ある寂静の世へ

ああ、私の目に

白き花が散り初めるのが見える…

もう一度…

今日のはポエムってか若干リリックっぽいかも。

「もう一度…」

傷ついた翼では

目指していた明日までは飛んでゆけない

視界が涙で閉ざされている

もう、立ち上がれないんだ

失くすものなんかないと 強がっていた昨日は

どこに行ってしまったのだろう

一人 冷たい夜の中うなだれている

残り火も燃え尽きて 冷たい中 一人…

聞こえてきたのはあの日の歌

あなたの声

ひびの入った心を埋めてくれる

そうだ、思い出したんだ

自分が信じられるもの

全てを敵に回しても

あなたを信じている俺 それだけは敵じゃない

もう一度 拳を握りしめるんだ
もう一度 力を振りしぼるんだ
神だって敵に回しても

あなたを信じている俺 何も怖くはないはずさ

天界編序奏とかMAKE-UPさんの「Try Again」とかを思い出しつつ書いてました。タイトルもそれっぽい感じでしょ？（笑）

もちろん星矢をテーマにしました。
まあありそうなポエムですけどね。

ところでなんですが、ミノスについてのポエムを作ろうとしたら、どうしても某メタルバンドの歌詞っぽくなってしまっただけ…（汗）「情熱のゲームも終わりだ」とかいつて。知っている方。そうですね。曲です！知らない方、興味があればググってみてください。多分「情熱のゲームも終わりだ」で出ます（笑）。

Mirror Dimension

今回は結構シリアス系です。
舞台「教皇の間」ということで。

「Mirror Dimension」

鏡は砕け散る

迷宮は消え去ったのだろうか

私の「真」は砕けてはいない

聖性が邪悪か

未だにそれは分からないけれども

涙を流しているその訳を教えてください

それとも お前が私自身だから

答えられはしないのか？

私は仮面を二重に被り

己自身を見つめている

無限の回廊に迷える己が見える

眼を閉じたなら

狭間に潰れそうな己が見える

消え去る事が浄化になるのか

贖罪とは何なのだ

答えてくれる鏡よ鏡

お前はもういないのだな

善悪の狭間に悩めるアノ人を題材にしました。

実はこれ改変版で、改変前のものを書いた紙があつたのですが、
どっか行つた＋その内容があまり思い出せないので雰囲気(?)を
頼りにほぼ一から作りました。

その紙には他にたくさんポエムが書き留めてあつたので、なくし
て残念です…

凍り付いた記憶

雪の降る寒い季節となって参りました。
今日のはそれを思いながら作ってみたやつです。

「凍り付いた記憶」

目を凝らしても 其処に貴女の姿を認められない
光の一筋さえ届かない深みの内
想い出は 沈められたんだ

けれど 消えはしない

色褪せはしない

凍り付いたあのときの中

花は散らないままで

美しさを留めたままでいるのだから

俺がすがりつくのは 今という時じゃない
氷海の底 永遠に行ってしまったあの瞬間

消えはしなかったもの

色褪せはしなかったもの

凍り付いたあの時から

それよりずっと前から抱いていた

融けた氷のような俺の心

俺がすがりつける 自分の強さなどない

季節の中 置き去りにされた夢幻（ゆめまぼろし）

マーマへの思いを断ち切れないでいる氷河をテーマにしてみました。

氷河はマザコンだマザコンだと言われていますが、私は氷河とマーマの話好きなんですよね。

Stand By Me

天醜星デッドリービートルさんの技名をなんとなく使えそうだったので拝借しました。

…が、内容が全然デッドリービートルさんじゃない。
まあ、アノ人ポエムにするにはかなりきわどいし…

それと、同名の映画や曲名とも一切関係ありません。

「Stand By Me」

死した夜の静寂に響き渡るのは
光の遠のいて行く音

にわか雨 去った後の水溜まりに
俺が翳^{かげ}りを落としている

ふと 俺の鏡像が揺らぎ出す…

眠っても あるのは空虚な時間だけ
夢は 俺を見捨てて行ってしまった

眠る時 俺を抱くのは孤独に満ちた闇

あの温かく燃え続ける愛は ここまで照らしてはくれないのか

貴女が俺の傍にいてくれたなら

幻影でもかまわない

貴女という存在を 俺の近くに感じられたなら

…って、これもはや冥闘士ですらなく聖闘士ですよね。
「貴女」ってアテナだし…

でもこれ、主人公誰なんだろう。

Galaxy Mythos

今日は突然何かが降りてきたようにスラスラと書けちゃいました！
「聖闘士星矢のテーマ」みたいな感じです。

「Galaxy Mythos」

俺は守護星を凍て空に見つける
遙か時空の彼方 燃え盛る命が
俺の鼓動と響き合う
宿命に引き寄せられて 出会い別れる
二百億年 その始まりからずっと

果てしない夜の中に彷徨う
フエイト
運命の女神達の紡ぐ糸 俺の指先に絡みついた
未来も過去も手繰り寄せて
手にしたものは 守りたいこの夢

俺達の創り出す銀河の神話
ギャラクシーミュトス
闇と永遠を貫いて輝き出す
ギャラクシーミュトス
終わることのない銀河の神話

俺達の中 燃え尽きはしない炎 - 宇宙の欠片

なんか、中学校の合唱曲に「COSMOS」っていうのがあったの思い出しました…
あれはいい曲だったなあ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6896y/>

聖闘士deポエム

2011年11月24日13時50分発行